

2027年国際園芸博覧会
神奈川県出展基本構想

令和6年10月
神奈川県

1	はじめに	… 3
2	出展がめざすもの	… 4
3	出展の意義及びテーマ	… 5
4	空間構成	… 7
5	施設配置の基本方針	… 9
6	展示に係る基本方針	… 11
7	行催事に係る基本方針	… 13
8	管理運営に係る基本方針	… 14
9	広報に係る基本方針	… 15
10	出展成果の継承(レガシーの方向性)	… 16
11	参考	… 17

2027年国際園芸博覧会(以下「GREEN×EXPO 2027」という。)は、「幸せを創る明日の風景」をテーマに、神奈川県で開催されます。

この「神奈川県出展基本構想」は、GREEN×EXPO 2027において、本県が出展する意義を明らかにした上で、出展のテーマや展開の視点、展示・催事の基本的考え方、出展成果の継承など、出展の骨格について取りまとめたものです。策定に当たっては、有識者からなる「2027年国際園芸博覧会神奈川県出展基本構想に係る出展懇談会(以下「出展懇談会」という。)」において検討をいただきました。

本基本構想においては、GREEN×EXPO 2027のテーマである「幸せを創る明日の風景」や県政の基本理念である、「いのち輝く“Vibrant INOCHI”」のコンセプト、本県の主要施策のPRの視点を踏まえ、出展の成果が、地域の発展に向けた未来へのかけ橋となることを目指しています。

そのためには、様々な形での幅広い県民の参加を図ることで実り豊かな出展を実現することが重要であり、県民参加型の出展として、今後の設計から実施に向けた計画、そしてGREEN×EXPO 2027での展開という具体化のステップを進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、この基本構想の策定に当たり、熱心にご検討いただきました出展懇談会の委員の皆様をはじめ、ご協力いただきました多くの関係者の方々に心から御礼を申し上げます。

- 神奈川県は、横浜、川崎などの大都市がありながら、のどかな田園地帯、湘南の海、丹沢の山々、古都鎌倉、箱根の温泉保養地など、風光明媚でみどり豊かな自然環境にも恵まれている、いわば「日本の縮図」である。こうした環境の中で、消費地に近いことを活かした「都市農業」が営まれており、様々な野菜や果物が生産されている。
- さらに、横浜開港より西洋文化が広がったことを契機として、全国に先駆けて花き園芸が発達したという歴史もあり、今日では恵まれた気候風土と高い栽培技術により県内各地に花きの産地が形成されている。
- こうした、みどり豊かで多様な環境と花き園芸の歴史を持つ神奈川の地で、GREEN×EXPO 2027が開催されることは大きな意義がある。
- GREEN×EXPO 2027への神奈川県の出展においては、県が有するこれらの多彩な自然環境や花き園芸の文化・歴史などを背景に、さらに、新しい時代に向けて、共生社会の実現、持続可能な社会づくり、未病(ME-BYO)の改善などの県が推進する施策を通じて、いのち輝く“Vibrant INOCHI”のビジョンを世界へ発信する。
- また、GREEN×EXPO 2027は、海外からも多くの参加や来場が見込まれることから、国際的に「KANAGAWA」をアピールする絶好の機会でもある。多様な交流の場としてGREEN×EXPO 2027をとらえ、神奈川が誇る魅力を積極的に発信し、開催県として、世界との交流を深め、地域の一層の発展につなげていく。
- GREEN×EXPO 2027は、国際的な一大イベントとして、参加者に、他には得られないような夢や感動に満ちた体験や、国内外の人々との多くの交流の機会を提供するものである。展示や催事などを通じたGREEN×EXPO 2027での参加体験を、一人ひとりが記憶に深く刻み込み、それぞれの行動や地域での活動等につなげていくことで、未来へのレガシーとしていくことをめざす。

(1) 出展の意義

神奈川県の出展は、県内の花き園芸・造園・農の振興はもとより、GREEN×EXPO 2027のテーマとの調和を踏まえ、県が掲げる施策を国内外に広くPRするとともに、来場者の意識変容・行動変容を促し、地域における様々な取組に広げることで、県政の基本理念である、「いのち輝く“Vibrant INOCHI”」の実現をめざす。併せて、観光振興を含めた経済活性化にもつなげていく。

(2) GREEN×EXPO 2027のテーマとの調和

出展のメインテーマ＝県政の基本理念

“Vibrant INOCHI”
一人ひとりの“いのちが輝く”

GREEN×EXPO 2027のコンテンツの中心となる「花や緑、農、食」は、私たちのいのちや暮らしを支え、また、世代を超えて感動や笑顔をもたらすものであり、県政の基本理念である「いのち輝く」というコンセプトとも一致する。

この「いのち輝く“Vibrant INOCHI”」をメインテーマに、県の施策をPRし、自然と人が共生する持続可能な社会の実現をめざす。



コンセプトの融合

GREEN×EXPO 2027のテーマ

幸せを創る明日の風景
Scenery of the Future for Happiness

(サブテーマ)

自然との調和
Co-adaptation

緑や農による共存
Co-existence

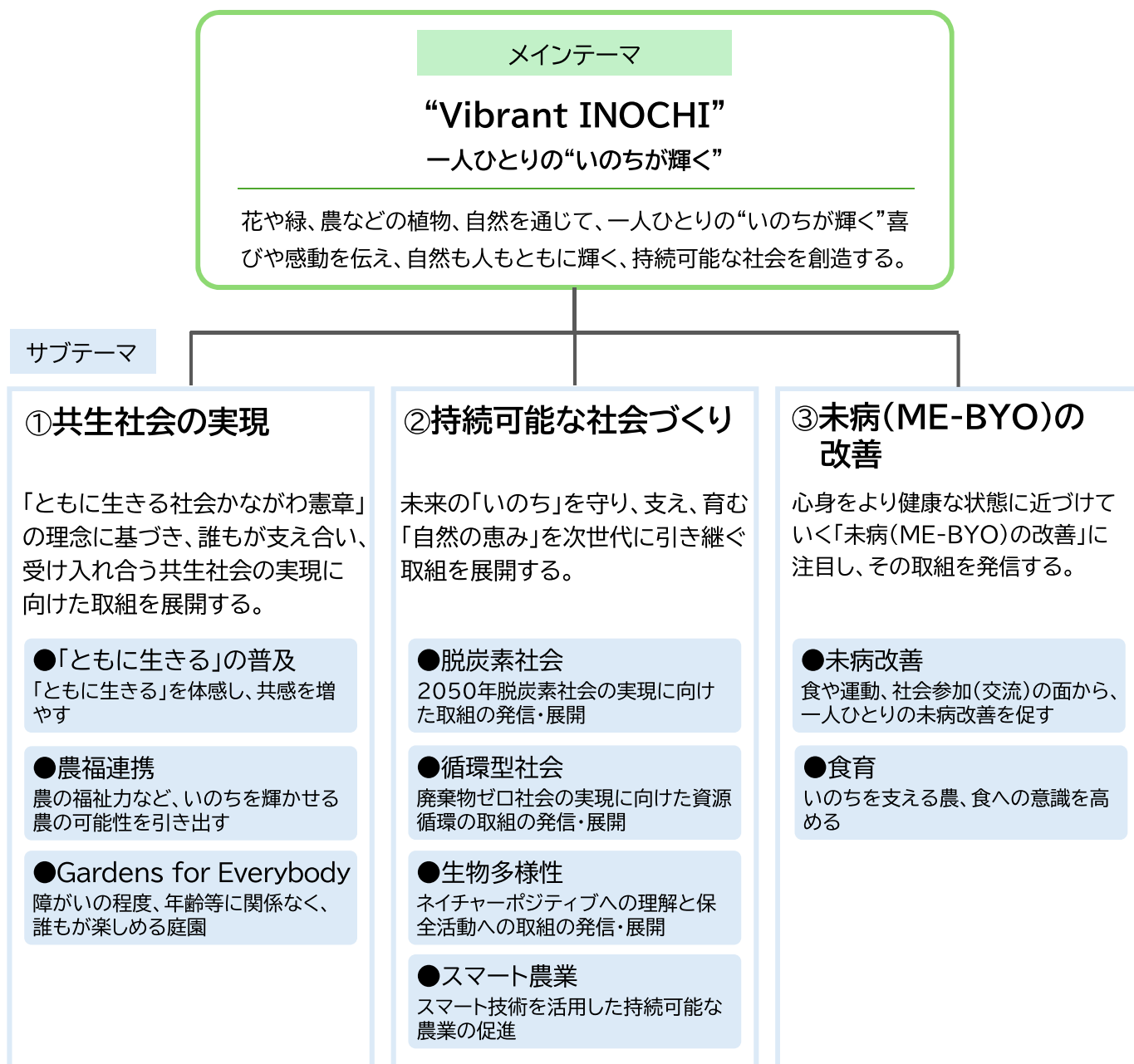
新産業の創出
Co-creation

連携による解決
Co-operation

GREEN×EXPO 2027は、人々の命や暮らしを支え、感動や笑顔をもたらす「花や緑、農、食」について、自然財としての多様な価値を再認識し、自然を活用した解決策によって、自然と人が共生した持続可能で幸福感が深まる社会の創造をめざすとしている。

(3) 出展のテーマ

出展のメインテーマである“Vibrant INOCHI”を具体的に展開していくため、県の施策を踏まえたサブテーマを設定し、ストーリー性を持たせた魅力的な展示により、国内外からGREEN×EXPO 2027を訪れるあらゆる人々に対し訴求していく。



多様な主体の参加・協働・共創による実現

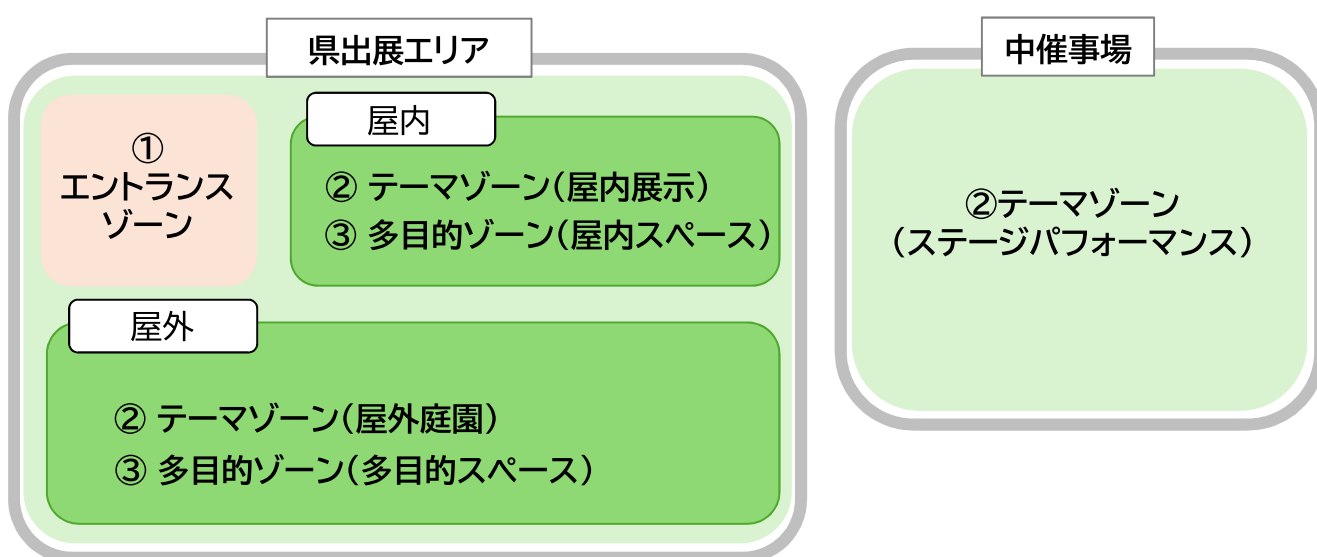
～みんなで盛り上げ、みんなで創り、みんなが参加～

県内の様々な活動を取り入れ、誰もが参加できる機会を拡大し、GREEN×EXPO 2027の終了後も持続可能な取組へとつなげていく。

本出展事業は、いのち輝く“Vibrant INOCHI”をテーマとした屋外庭園や屋内展示を出展するだけでなく、このテーマを分かりやすく発信するために、中催事場を活用したステージパフォーマンスによる出展を行うなど、効果的にテーマやメッセージを発信していく。

空間構成としては、来場者を受入れ、誘導するエントランスゾーンから、出展の中核をなすテーマゾーン(屋外庭園・屋内展示・ステージパフォーマンス)、県内市町村や県民等の参加の場としても活用可能な多目的ゾーン(屋内スペース、多目的スペース)で構成する。

その他、来場者が快適に見学・散策できるよう、各所に緑陰やパーゴラ、ベンチなどを計画的に配置する。



①エントランスゾーン

導入部であるエントランスゾーンは、来場者を神奈川県の出産地をPRする花や植木で出迎え、テーマ展示へのガイダンスを行いながら、来場者の期待感を高めていく。

また、来場者を調整するウェイティングエリアとしても機能させる。

②テーマゾーン

神奈川県の出展テーマやメインメッセージを来場者に直接伝える機能とする。

県出展エリアでは、屋外庭園・屋内展示それぞれの空間特性に応じて最適な展示手法を活用する。併せて、中催事場で、“Vibrant INOCHI”を全世界からの来場者に分かりやすくPRするため、ステージパフォーマンスを制作、上演する。

③多目的ゾーン〈屋内スペース、多目的スペース〉

県内市町村による地域参加や、学校・企業・団体・NPOなど幅広い主体の参加を可能とするために、庭園を含め多目的に利用できるスペースを設け、国内外からの来場者に向けて様々な手法で発信できる機会を提供し、来場者と参加者の交流の場、賑わいの場としても機能させる。

(1) 計画敷地の概要

計画敷地は、会場西側エリアの北側で、ゲートから300m程度の場所に位置するとともに、主動線に接しており、ゲートを入場する来場者からアクセスしやすい。



(2) 施設配置方針

計画敷地は全体で約5,000㎡であり、屋内施設(最大約700㎡)と屋外庭園で構成される。また、隣接する「中催事場」との一体性や、スムーズな人流を考慮した施設配置とイベントスペースを検討し、敷地前面には、回遊性のある庭園を計画する。



パース(参考イメージ)

(3) サステナビリティに配慮した整備・運営

○環境への配慮

生物多様性や気候変動対策等の取組を発信し、サステナブルな社会の実現に貢献するという2027年国際園芸博覧会協会(以下「博覧会協会」という。)の「サステナビリティ戦略」に基づき、建築や外構・植栽等の設計から整備・運営、撤去・再利用に至るまで、環境に配慮した取組を検討する。

具体的には、県産木材を最大限に活用するとともに、博覧会協会の調達コードに則った、環境に配慮した素材の選定や、エネルギー消費の軽減を重視した設計とするなど、解体時の廃棄物を抑制する観点からリユースやリサイクルが可能な素材等の積極的な活用を行う。

植栽計画においては、耐病性や耐虫性のある品種を積極的に採用し、低農薬管理など環境負荷の低減に努める。

また、展示後の移設や移植など、再利用について検討する。

○ユニバーサルデザインへの配慮

国・地域や文化、人種、性別、世代、障がいの程度等に関わらず、あらゆる来場者が安全・快適に展示・体験を楽しむことができるよう、博覧会協会が定めるガイドライン等に基づき、ユニバーサルデザインに配慮した施設設計や展示計画を行う。

(4) その他

○快適な観覧環境への配慮

来場者の暑熱対策に配慮し、緑陰やパーゴラ、ミスト等を活用した快適な観覧環境づくりを検討する。併せて、来場者が休息することができるベンチなどを計画的に配置する。

(1) ターゲットの想定

GREEN×EXPO 2027では、1,000万人以上の来場が想定されており、子どもから高齢者まであらゆる年代で、国内外から様々な国籍や文化的背景を持つ人々、障がいのある人々など、多様な人々が訪れることが想定される。

県出展においては、様々な来場者を受け入れるとともに、特に、未来を担う子どもたちにわかりやすくテーマやメッセージが伝わるよう、体験型の展示やステージの活用など、より効果的な手法を検討する。

(2) 展示計画方針

県出展のメインテーマ及びサブテーマを踏まえ、以下の項目に留意しつつ、ストーリー性のある展示計画を検討する。

- ・ 神奈川県の子育て支援の展示など、本県ならではの花・緑の魅力を発信する。
(例：スイートピー/スプラッシュシリーズ、サルズベリ/ディアシリーズ など)
- ・ 県内の産地をPRできる植物を積極的に使用する。
(例：バラ、カーネーション、パンジー など)
- ・ 来場者の展示への理解を深めるため、屋外庭園と屋内展示で補完し合うような展示を行う。
- ・ 来場者に発見や驚き、感動を与えることができるように、五感をフルに活用した体験型の展示や移り変わる季節に応じた展示を行う。
- ・ 来場者を惹きつけ、SNSで共有したくなるような展示や、変化に富んだ魅力的な演出を積極的に活用する。(例：ライトアップ など)
- ・ 天然素材を利用した花苗ポットの使用など、展示に係る資材等の選定に配慮する。

①花・緑出展

(屋外庭園)

- ・ テーマを分かりやすくイメージさせる、印象的なシンボル展示を行う。
- ・ 園芸を通じた共生社会の実現や持続可能な社会づくりなどのモデル展示を行う。
- ・ 県内市町村や植物園など多様な主体と連携した花・緑などの魅力をPRする展示を行い、GREEN×EXPO 2027訪問後の各地の周遊を促していく。
- ・ 子どもたちによる庭園づくりなど、県民参加の場として庭園を活用する。
- ・ 庭園だけでなく、農の景観を活かした展示を行う。

〔主な展開例〕

共生社会の実現	・ 車いす利用者、視覚障がい者、聴覚障がい者など、誰もが楽しめる、五感で感じられる庭園の展示 ・ 県立特別支援学校などの子どもたちとの連携による花壇づくり など
持続可能な社会づくり	・ リサイクル素材を活用したプランター等による花壇の展示 ・ スマート技術の展示 ・ 自然とともにある暮らしの提案 など

(屋内展示)

- ・屋外庭園と連動しながら、県が推進する施策(共生社会の実現、持続可能な社会づくり、未病(ME-BYO)の改善など)をより深く理解してもらえよう、展示内容・手法を検討する。

〔主な展開例〕

共生社会の実現	・農福連携の取組の紹介 ・ともいきアートの展示など、共生社会の実現に向けた取組の紹介 など
持続可能な社会づくり	・スマート農業技術の紹介 ・ペロブスカイト太陽電池の普及啓発など、脱炭素社会の実現に向けた取組の紹介 ・プラごみゼロなど循環型社会の実現に向けた取組の紹介 ・生物多様性の保全に係る展示 ・高校生によるSDGsなどの学習成果の発表 など
未病(ME-BYO)の改善	・未病改善レシピの紹介 ・食育セミナーの実施 など
本県の魅力発信	・花や緑の名所など本県の観光スポットの紹介 ・かながわブランドの紹介・展示 ・時代の変化やニーズに合わせた神奈川産農産物の紹介 ・県内企業の特色ある技術の紹介 など

②ステージ出展**県民参加による「“Vibrant INOCHI”パフォーマンス」(中催事場)**

- ・“Vibrant INOCHI”を全世界からの来場者に分かりやすくPRするため、ステージパフォーマンスを制作、上演する。

(1) 神奈川県による主催催事

- ・ 192日間の会期の中で、季節感を感じさせる祭りや行事、花・緑の中で楽しむライブイベントなど神奈川の魅力を発信し、集客に資するような催事を企画・実施する。
- ・ また、テーマを深く訴求し、行動変容につなげるようなイベントプログラム(花育や食育など)も検討する。

(2) 県内市町村やその他主体による催事（多目的スペース等）

- ・ 県内市町村や、学校・企業・団体・NPO等から幅広く募集し、屋内スペースや多目的スペースを活用して実施してもらう。

〔主な催事例〕

- ・ 県内市町村等による特産品の魅力紹介
- ・ 多様な主体によるイベント、地域の祭りや伝統的な催し物
- ・ 県民参加によるワークショップ など

県出展の管理運営に当たっては、博覧会協会が行う会場の全体運営との連携を図りながら、下記のような点に留意し、来場者の安全・安心、快適性に配慮した管理運営を展開する。

(1) 管理運営に関する基本方針

①192日間を通じた、来場者の安心・安全、快適性の確保

- ・ 長期間にわたる会期の中では、荒天、猛暑や混雑期等、様々な状況変化が想定され、その中で来場者の安全・安心を担保し、できるだけ快適に観覧・体験してもらうことが求められる。そのためには様々なケースを想定したシミュレーションが必要であるとともに、一方で費用対効果も考慮し、効率的な管理運営計画を検討する。

②県民参加を促進するボランティアの積極活用

- ・ 管理運営においても県民参加を促すため、積極的にボランティアを活用する。
- ・ 花・緑に造詣の深いシニア層など、運営に必要な支援を行ってもらえるよう、様々な業務内容や働きやすい稼働時間などを設定し、ボランティア参加を促進する。
- ・ 未来を担う子どもたちや障がいのある方を含めた多様な県民がボランティアとして参加することをめざす。

③ダイバーシティ・インクルージョンを意識した管理運営

- ・ 国内外からの様々な来場者に対して、ユニバーサルデザインや多言語対応など誰もが同じように観覧・体験できる環境づくりに配慮する。
- ・ さらに、年代、性別、国籍、人種、障がいなどを超えて、互いに理解し合い、一人ひとりが能力を発揮し活躍できる環境づくり＝ダイバーシティ・インクルージョンを運営の基本理念とし、来場者のみならず、管理運営を行うスタッフにおいても、様々な人々が共に働き活躍できる環境を創出することをめざす。

(2) 展示植物の調達・維持管理に関する基本方針

- ・ 展示植物の調達に当たっては、多品種かつ大量の植物を使用するため、県内各地の生産団体や生産者と連携し、安定した供給体制を構築する。
 - ・ 展示植物を常に良好な状態に保つため、気候や花きの種類などに応じた適切な維持管理を実施する。
- また、上記に必要な知見や技術を、運営スタッフやボランティアが学び実践する仕組みを構築する。

(1) 期間別に効果的な広報の実施

- ・会期前・会期中のそれぞれの段階に応じた広報を実施し、県出展への期待や関心を高め、参加・来場促進につなげていく。

会期前	<認知促進> ↓ <来場促進>	・様々な機会をとらえた情報発信による興味・関心の喚起、期待感の醸成 ・出展をめざした地域での花づくりなど、早期からの機運醸成 ・パフォーマンスの参加オーディションや、催事募集、ボランティア募集などによる機運醸成 ・具体的な出展内容の発信による広報 など
会期中	<来場促進>	・県出展の魅力紹介や、季節毎の催事メニューの紹介などによる来場促進 など

(2) 多様な主体と連携した来場・参加促進の実施

- ・県立高校をはじめ県内の学校等と連携し、多くの子どもたちが国際的イベントの場で貴重な経験をしてもらえるよう到来場・参加を促すための取組を行う。
- ・県内の農業・園芸関係団体や、花・緑に関連するコミュニティをはじめ、多様な関係団体と連携して来場・参加を促進するとともに、GREEN×EXPO 2027を契機に積極的に横連携を促していくことで、会期後の継続的な活動の活性化にもつなげていく。
- ・横浜市をはじめとして、県内市町村と連携し、来場者に対し県内の観光周遊を促すことで、経済活性化につなげていく。

(3) 県のキャラクター等の広報ツール、オウンドメディアを活用したPRの実施

- ・県のオウンドメディアや県が実施するイベント等でのPRが広報のベースになることから、県が保有するPRキャラクター(かながわキンタロウ、ミビョーマンなど)を活用し、子どもたちを含む様々な層にわかりやすく周知を図る。さらに、県内市町村とも連携して各々のキャラクターの活用などによる話題化を図るなど、効率的かつ効果的な広報も検討する。
- ・「GREEN×EXPO 2027 応援団」による各種イベント等での効果的なPRも検討する。

(4) ステージ出展と連携した「絵本」の制作

- ・「“Vibrant INOCHI” パフォーマンス」と連携した絵本を制作することで、子どもたちを中心とした幅広い世代に対してテーマへの理解を深めるとともに、絵本をきっかけ到来場を促進する。

GREEN×EXPO 2027における県出展を一過性のイベントで終わらせず、地域に根づいた貴重な財産として将来に活かし、さらに発展させていくために、レガシーを意識した出展・運営を行っていく。

〔期待されるレガシーの方向性〕

○ 園芸や農への理解促進と行動変容

- ・ 園芸博を訪れた多くの来場者が、展示や催事等での体験を通じて、花・緑との交わりをより身近に感じるにより、県産農産物の消費拡大や、日常的に花・緑のある暮らしの実現につながる。
- ・ 出展や催事を通じた多くの参加者による協働が、公園や学校をはじめ地域の緑化活動などへの取組にも波及していくことをめざす。

○ テーマに対する理解促進と行動変容

- ・ 農福連携、園芸福祉などへの理解・共感を通じて、園芸や農が共生社会の実現に果たす役割を理解し、行動する人々を増やす。
- ・ 自然の恵みの大切さを理解し、この恵みを受け続けていくために、生物多様性の保全や脱炭素につながるよう、自らの行動を変えていく人々を増やす。
- ・ 園芸や農に関わることが心身の健康づくりに役立ち、一人ひとりの未病改善につながることを理解し、行動変容につなげていく。さらに、本出展での体験を入口に、様々な未病改善への取組につなげていく。
- ・ 閉会後に、展示で使用した花きや樹木、建築資材等を植物園や公園に移植、移設するなど、物理的なレガシーの継承をめざす。

○ GREEN×EXPO 2027への参加経験

- ・ ボランティアや催事など、GREEN×EXPO 2027への参加による貴重な経験を社会貢献や国際的な感覚等の醸成につなげることで、開催後の人生の糧としていただくことをめざす。

(1) 2027年国際園芸博覧会神奈川県出展基本構想に係る出展懇談会
委員一覧(五十音順、敬称略)(○は座長)

加藤 修	株式会社ヘッズ 東京本社 代表取締役
澤田 みどり	恵泉女学園大学 人間社会学部 特任准教授
澤田 裕二	UG WORK合同会社 代表
濱田 健司	東海大学 文理融合学部 経営学科(文理融合)教授
若松 浩文(○)	株式会社ランド 代表取締役

(2) 実施概要

第1回(令和6年9月10日)

- ・懇談会の趣旨について
- ・2027年国際園芸博覧会神奈川県出展基本構想(素案)について

第2回(令和6年9月25日) 書面開催

- ・2027年国際園芸博覧会神奈川県出展基本構想(素案)について